

2012年1月20日

様

『さよなら原発！宮崎いのちの広場』実行委員会準備会事務局  
藤原 宏志（元宮崎大学学長）  
青木 幸雄（宮崎の自然と未来を守る会共同代表）

## 「賛同団体」のお願い

昨年3月11日の東北地方太平洋沖地震と津波は、1万9千余人もの死者・行方不明者を出す未曾有の大災害となりました。亡くなられた方々や関係者の方々に、心よりのご冥福とお悔やみを申し上げます。

ところで、この地震と津波により、福島第一原発では複数の原子炉のメルトダウンと水素爆発（3号機は即発臨界核爆発という説もあり）という、かつて人類が経験したことのない事態が発生し、大量の放射能が人々の上や海にまき散らされました。この事故で、今まで言われていた「原発の安全神話」は完全に崩壊し、原発を取り巻いていた様々な“ウソ”が次第に表面化されるようになってきました。

しかし、子供たちや地域の命を守る手だても定まらないまま、政府は事故の「収束宣言」を行い、定期点検で停止している原発の再稼動を公言するまでになってきました。

この間、私たちは様々な方々との対話を重ねながら、脱原発を実現するには、「さよなら原発」という共通の思いで広く手をつなぎ合う以外に方法はないと考えるようになりました。3.11の経験は私たちに新しい決断を迫っています。そのため、私たちは3月11日を『“祈り”と“さよなら原発”の日』と位置付け、長年脱原発運動に取り組んできた団体や個人だけでなく、福島を事故を経験し新たに動き始めた人や、脱原発の思いを持ちながらも足を踏みだ出すことが出来ずにいた多くの方々も含め、「原発はもうやめよう」という共通の思いで手をつなぎ、様々な障壁を乗り越えて『さよなら原発！宮崎いのちの広場』をつくらうと思います。

大事故の原因には、自然災害、工学的原因、ヒューマンエラーなど様々な要因が考えられますが、今も続く大きな余震や差し迫ると言われる東海・東南海・南海・日向灘の連動地震などは、原発や関連施設が再び大事故に見舞われることすら予感させます。これ以上の大事故は何としても避けなければなりません。特に宮崎県と隣接する川内原発での大事故は、宮崎県に未曾有の放射能汚染を引き起こすことは疑う余地がありません。

「放射能はもうごめん！川内原発1、2号機は廃炉に！川内原発3号機増設白紙撤回！」という共通の思いを実現させるために、『さよなら原発！宮崎いのちの広場』の企画を進めています。ぜひ「賛同団体」になって頂きますようお願い致します。

### 《予定していること／内容・時間等調整中》

- ◆ 3月11日（日）／宮崎市役所下河川敷  
『さよなら原発！宮崎いのちの広場』  
コンサート  
キャンドル集会  
キャンドルパレード

- ◆ 尚、2月28日から3月2日にかけて県内4会場（都城、小林、宮崎、延岡）でプレ講演を開催予定。（講師：藤田祐幸氏「宮崎から川内原発を考える」）